

安全衛生部会からの報告・ご協力依頼

安全衛生部会 座長：岡野谷純、洙田靖夫

(1) これまでの活動（安全衛生部会発足からの活動）

毎月1回の定例会及び毎年度の安全衛生フォーラム（過去5回開催）の開催等を通じて、

- 1) 災害ボランティア活動時の危険項目の洗い出し、予防策の検討、適宜とりまとめ
- 2) 上記の結果を反映した「災害ボランティア活動・目からウロコの安全衛生プチガイド（以下ガイド）」を作成、各地の被災地で広く配布し活用
- 3) 各地の災害ボランティアセンターに「安全担当」設置を呼びかけ、救護班の具体的な活動を検討・啓発
- 4) 集団災害医学会、災害情報学会等における発表報告等、浜松医科大学との厚生労働科学研究、海外研究、近接分野との連繋活動

(2) 東日本大震災における活動・成果

各地域：携帯用ガイド(A5版)を5万部増刷、加えて掲示用A1版を3千部作成・配布し、活用された
宮城県気仙沼市：ボランティアのための救護班（日赤、ナースなど）の設置を勧告し、実際に設置された
千葉県旭市、他：災害ボランティアセンター開所当初から上記ガイドを全員に配布し、活用された
JCN：安全衛生を重視したマニュアル、資料の共同作成、広く啓発 等

(3) 東日本大震災における課題・考えられる対策

- 1) ボランティア活動におけるケガ等の事例把握と予防策の検討が必要ではないか。
本年の災害でも釘の踏み抜き、肋骨骨折、挫傷、擦過傷、熱中症、悪臭で倒れたなどの疾病があった。
- 2) 活動者の惨事ストレスの症例が確認された。より一層の取り組みが必要ではないか。例えば、
①活動者自身によるストレス対策、②被災者のストレスケアにボランティアがどう関わるか、
③被災者のストレスケアに関わったボランティア自身のストレス対策 など。
- 3) 福島県などで実施されているボランティアによる除染活動等について、どう対応すべきか
- 4) 冬を迎え、今後行われるであろう寒冷環境下でのボランティア活動について、どう事故を予防するか
- 5) 「目からウロコ」の配布、救護班の活動、JCNの啓発活動等、過去の部会活動を検証すべきではないか

(4) 今後の展開

安全衛生部会で以下のことを実施したいと考えていますので、ぜひご協力をお願いいたします。

- 1) ボランティア活動に関するこれまでのケガ、疾病事例を集約、整理検証し、「目からウロコ」の改定、ストレスケア・その他のガイド作成に活かしたい。もって、ボランティア活動安全や衛生環境の更なる充実を図りたい。以下、協力依頼の内容。
①災害ボランティアセンターでの傷病記録、救護班記録などの提供（ボランティアの傷病実態調査実施）
②災害ボランティアセンターの受付名簿の提供（登録者への帰宅後の傷病・ストレス実態調査実施）
③内閣府実施、ボランティア活動の安全衛生に関する調査に、以下の項目の追加。
イ. 東日本大震災、台風水害その他、広範な災害におけるボラセンの設置の有無、状況等
ロ. 活動者の傷病について（件数、病態、活動内容、ボラセン内処理件数、保険活用件数など）
ハ. その具体的な内容（例：骨折、原因：寝不足（本人の証言）、本人や関係者が考える回避策など）
- 2) ボランティアの安全衛生に関するデータベースづくり
安全衛生関連情報を集約し、広く一般の方々に活動の実態を周知する
そのために、安全衛生に関する対応策や「傷病記録」「ヒヤリハット記録」の把握・公開・活用
①災害時のコーディネート活動に負担にならないような「ひな形」を作成し配布する。
②個人情報等の取り扱いなどの法的な問題や参加者の懸念が生じない事務・報告システムを構築する。
③今後の災害において、各災害ボランティアセンター等にご協力をお願いしたい。
- 3) 寒冷環境でのボランティア活動における安全衛生のパンフレット作成
A4・1枚程度のリーフレットを作成し、現地で配布する（活用状況を踏まえて次のガイド作成に活かす）